

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

明日香

日付 平成 21年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成15年に設立して、もう6年目を迎えているホームを毎年外部評価をさせていただいており、今年も訪問することになった。よく管理者が代わっているの、またかと思い訪問した途端に驚いた。何と今までにない明るい楽しい雰囲気か漂っているではないか。代表者が真っ先に出迎えてくれた。代表者の顔を見たら、何と晴々しているではないか。こんな代表者の表情を5年間通って見てきた事がない。管理者とは初対面かと思ったら、前にこのホームで介護職で務めていて事情があって退職していたが、又復帰したそう。この人の人徳というか、ようやく何か安定したホームの職員体制を整えたようだ。成る程この雰囲気に代表者も安心したようだ。ようやくこのホームにも安定して、ゆっくりと穏やかなホームを築いていけそうだ。

玄関を入ったところの正面の壁に『笑いこそ百薬の長』という色紙が掲げている。まさにこの色紙にある言葉通りのホームが出来ていた。この管理者は、准看護師と介護支援専門員の資格を持っているが、利用者と一緒にホームで過ごすことが大好き、書類を書くのが嫌いという人。利用者から「ありがとう」と言ってくれるその一言で、元気づけられ嬉しい。高齢者は礼儀正しくて、何でもしてあげたいという人柄が、利用者から信頼されている。職員からも慕われている。上下関係もなく、わいわいガヤガヤ。夜勤でもないのに利用者と一緒に泊まったり、楽しみすぎてホームに入り浸りになり、朗らかと笑いがホームのどこでも広がっている。「今が一番一番いいんじゃない」と代表者も言い、和気あいまいの雰囲気が溢れていた。

洋食のコックさんだった男性職員も居て、その男性職員も人気者。リビングルームでカラオケが始まっておれば、入浴介助をしながら、リビングルームをのぞき込むカラオケ好きの茶目っ気を出して笑いを誘っている。入浴介助が終わって、この職員を中心にカラオケ大会が続いた。利用者も古くから居る人も多く、何か利用者も元気になって、笑顔いっぱい、多くの人が得意の咽を披露していた。このホームでは利用者が皆でよく動く。代表者が主導で、色々な運動やゲームをする。輪投げ、竹トンボ、紙風船等を使ってゲーム感覚で楽しみながら運動をする。ビーチボールを投げてテーブル上で対抗戦をしたり、輪を使ってユニークな体操をする。身体を動かして皆で楽しんでいるのがこのホームの特長である。カルタ取りをしたり、塗り絵、はり絵等もする。ぼ～とする暇もない位で笑いが止まらない。食事の時は歩ける人は、自分で配膳されたお盆を取りに行く。下膳は大抵の人が自分です。自分の出来る事は何でもするというのも、元気の源だろう。

特に改善の余地があると思われる点

利用者のアセスメントとして、人間としての機能についてしっかりと分析して、その人の現在の能力を見出せるようにしてケアに活かせるよう、一緒に考えていきましょう。

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：「認知症高齢者が家庭的な雰囲気の中で安心して笑顔で生活できることを目指します」という理念そのものが実現できていた。</p> <p>2、全体的に見て…：今年度から就任した管理者の下、代表者を始め全職員が、堅苦しいことを言わず、日常生活の中に「笑い」をいっぱい浮かべようという目標で日々職員と利用者が暮らしている。このホームの良い所は「全員参加の遊びに力を入れて、一つひとつに動きのある行動を取り入れて、利用者の元気を呼び起こす、皆で歌う、みんなで廊下を歩く、庭に出てお茶を飲もう等の動く事をこのホームのベースに置こうとしている。一方で、利用者の尊厳を大切にすることの気持ちとして「おしめを交換する時に、自分が小さい時にお母さんにおしめを変えてもらった時のことを思い出そう」という心理的な面も大切にしている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：生活空間の改善事項はない。</p> <p>2、全体的に見て…：認知症の人にとっての居住空間というのはどういうものだろうか。どのように空間づくりをすれば良いのか、このホームの事例を参考に考えてみたい。先ずアルツハイマー病の人の症状の程度によって、その人にとっての空間はどう見えるのか。先ず空間お形状は単調なのが適しているだろう。このホームの空間はリビングルームと居室の間の空間が一直線であり、単調である。この一直線というのが一番歩きやすいだろう。各居室から出たところに一直線の通路がある。歩行訓練をするのにも、食堂パートに行くにも直線が使いやすい。壁も一面であり、凸凹の少ない壁も一番馴染めそうだ。壁面の飾りや貼り紙も必要ない。食卓の目の前に一番見て欲しいものを置いてあげて欲しい。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネージメントに関して改善する必要がある事項はない。しかし、ケアに関する改良はどの項目も進めてケアの質の向上につないでいく必要はあるので、重点的な項目を選択して一つひとつ改良を積み重ねて欲しい。</p> <p>2、全体的に見て…：ケアの方針として、堅苦しい事は云わないけれど、コミュニケーションをしっかりと取って笑いをつくるようにと管理者はいつも職員に話している。帰宅願望があって、出たいと云えば、出たはダメではなく、付き添ってしばらく歩いてあげれば納得して帰ってくる。ご飯を食べてないと言え、食べたやないかでなく、今ご飯炊いているから一寸待ってねと云う。全てを否定せず、その人の思いをしっかりと受け止め、何故そんなことを云うのか原因を考えてみる。その人の気持ちを知ることにより、その人が納得する方法を見出していくのがケアであると考えている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：地域との交流は良くなってきているが、地域からの要請も必要な事もあるので、現時点で評価不能のこともある。又、利用者の能力に関して、認知症になる病気の進行によって必然的にその人の能力が低下していくものに関しては評価すべきでない判断するものがある。</p> <p>2、全体的に見て…：代表者・管理者・職員が協力し合って、一つの目標に向かっていく体制は整った。これからは、利用者本位で、それぞれの人が何をやるにしても笑顔で元気にやれるように仕向けていきたいと考えている。利用者も、食べる、排泄する、動く(歩く)の3つの人間としての基本の機能を大切にしていける事に重点を置いて支援していこうと考えている。この基本からコミュニケーションや喜怒哀楽の感情等に結びついていくケアが重要だと思う。</p>		